



シンプル化と次世代という企業の現実

令和6年8月15日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

シンプル化という企業の挑戦は、その効率性とコストの削減を提案するものである。これら機能性を追求するアメリカの企業がこれを有し、ITシステムにおける企業経営が、遥かに優れる彼らの現実を与えることにおいて留意できるものである。

また次世代という技術とシステム、製品という新しい現実には明確に企業の経営基準の転換において新たな市場という現実への参加を要求されるものである。

これらは非効率性という過去の遺物が、企業の完全な振り分けを行っていることを理解すべきである。これらは完全な2分化であり、既存環境において惑溺することが未来を与えないという現実なのである。

また企業努力という企業基盤が未来という現実を可能とすることも留意しなくてはならない。

これらは過去の企業の行動と判断が新しい現実という今日の市場において企業の正しい評価を与えていることは必ず真実なのである。

これらはまた人材における能力が未来を可能とすることも理解しなくてはならない。既存現実の崩壊と新しい未来という現実とは今日の現実であるからである。

これらは新しい企業環境への転換は完全に過去との決別を求められるのである。

しかしながら創造性という新しい未来の現実には、必ず可能性なのである。そのため、新しい挑戦者の現実には存在するのである。

これら留意して理解を求めるとき、人材の能力がこれらを可能とすることが理解できる。

これらは企業マネジメントにおける新しい選択であり、未来という可能性への正しい企業行動と構築は必ず新しい未来における可能性を有することを可能とできるのである。